

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名 中根 多恵

論文題目 多国籍ユニオニズムにおける運動資源の動員構造と  
戦略的アプローチの解明 —GUの事例分析をとおして—

### 論文審査担当者

主査教授 丹邊 宣彦

委員教授 田中 重好

准教授 河村 則行

准教授 青木 聡子

## 論文審査の結果の要旨

本論文は、非正規就業者、それも外国人を主な担い手とする個人加盟型労働組合のなかでは数少ない成功事例であるゼネラルユニオン(GU)による動員戦略を、5年余に及ぶ参与観察、質問紙調査、ドキュメント分析など多様な調査手法により解明しようとするものである。同ユニオン(1991年設立)は、大阪に本部を置き、英会話学校、大学の外国人講師らを中心に組織し活動している団体である。

序章・第1章では、既存の労働組合戦略が機能不全に陥る中で、社会運動(social movement)の要素を取り入れた社会運動ユニオンズムが先進国で重要性を増していることが示され、アメリカと対比させながら、日本社会でも、構造的、制度的固有性を踏まえながら、このセクターの運動戦略を解明することが課題となっているとする。

第2章では、組織基盤が弱く、流動的でフリーライダー問題が生じやすい、外国人の非正規就業者たちに向けた組合活動を分析するため、加入後の参加の持続までを重視し、インフォーマルな人間関係のネットワークと、市民社会からの正当性の調達という二つの資源の動員に着目した分析枠組が提示される。

第3章では、調査対象であるGUの組織形成過程と現在の組織構造が、続いて組合員の属性、来日の経緯・動機、語学教育を中心とした仕事の状況、家族構成などが調査をもとに描かれる。

第4章では、動員の最初の段階である組合員の加入を促す要因が調査データをもとに分析される。質問紙データをもとに職場仲間からの紹介をきっかけ、理由とした加入が多いことが示され、他方でそれを、リクルートの際に職場内のインフォーマル・ネットワークが活用される実態を示すことにより裏付けている。

第5章はフリーライダー化や脱退を防ぐため現組合員の活動参加をうながす要因を明らかにしている。質問紙データによる多変量解析からは、手段的な関わりより連帯・帰属感の強さが参加を促進していること、また活動から得られる集合財の評価を高めているのも、組合内の友人の数やつきあいの強さであることが示された。

第6章では、ドキュメント分析とインタビューをもとに、社会保険要求キャンペーンと大手語学学校経営破綻への抗議行動の際の、街頭での活動、ホームページでの発信などのホスト社会への働きかけとそのための運動のフレーム調整に着目し、それらがマスメディアによる活動の報道を可能にしたこと、他のユニオンとの組織間協力やそれへの動員が可能になったことを示している。

終章では、ユニークな成功事例としてGUを位置づけながら、他のユニオンとの比較、連携関係の検討が今後の研究課題として挙げられている。

今日の日本社会では既存の労働組合が弱体化して組織率が下がり続けており、労働条件の悪化や労働側の権利擁護が重大な社会問題となっている。増え続ける非正規就業者たちを組織化した成功事例を扱い、困難な調査を実施し、動員成功の特徴的な要因を因果的に明らかにしたことには重要な学術上の意義がある。審査員一同中根多恵君には博士(社会学)の学位を授与される資格があるものと判定した。